

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.374

2022(令和4)年3月22日(火)発行

新・安全神話か? 「処理水は安全」 経済産業省と復興庁は昨年12月、「原発の処理水(実は汚染水)を飲食しても健康に問題のない安全な状態」というチラシを、全国の小中高校などに約230万枚を配布。地元を軽視していますが、配布しないで保管している学校も多いのが救いです。

日本国憲法は鈴木安蔵が起草した 「憲法草案要綱」をもとに制定されました

憲法研究会の憲法草案要綱と日本国憲法の主な条文

鈴木安蔵氏(一九〇四、三、三〜一九八三、八、七)



終戦直後、7人の民間人で「憲法研究会」が構成され、全五八条の『憲法草案要綱』が完成します。執筆したのは憲法学者鈴木安蔵氏で、その草案をもとに現在の憲法が制定されました。「押し付け憲法論」の誤りは明白です。

憲法草案要綱	日本国憲法
日本国ノ統治権ハ日本国民ヨリ発ス	日本国民は、(略)ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する(前文)
天皇ハ国民ノ委任ニヨリ専ラ国家的儀礼ヲ司ル	天皇は、この憲法の定める国事に関する行為のみを行ひ、国政に関する権能を有しない(4条)
国民ハ法律ノ前ニ平等ニシテ出生又ハ身分ニ基ケ一切ノ差別ハ之ヲ廃止ス	すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない(14条)
国民ノ言論學術芸術宗教ノ自由ニ妨ケル如何ナル法令ヲモ發布スルヲ得ス	思想及び良心の自由は、これを侵してはならない(19条)、信教の自由は、何人に対してもこれを保障する(20条)、集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する(21条)
国民ハ健康ニシテ文化的水準ノ生活ヲ営ム権利ヲ有ス	すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する(25条)

<左>の『憲法草案要綱』の条文と、<右>の『日本国憲法』の条文をくらべてみると、草案をもとにしていることが分かります。

「学び舎」の中学教科書では「押し付け憲法ではない」と記述

○中学校や高校で使用する教科書で、正しい憲法成立の過程や、「憲法は、国や政府の暴走を抑制し、国民の権利を守るもの」という立憲主義もしっかり記述されていることが大事です。

▼2021年11月26日「週刊金曜日」1355号・植村隆「ヒラ社長が行く」Vol. 147のコピー

日本国憲法制定を他の教科書と比べた。「育聯社」は、連合国軍総司令部(GHQ)の圧力を強調する。「GHQは日本側の改正案を拒否し、自ら全面的な改正案を作成して、これを受け入れるよう日本側に強く迫りました。天皇の地位に影響がおよぶことをおそれた政府はこれを受け入れ」「議員はGHQの意向に反対の声を上げることができず、ほとんど無修正のまま採択されました」「自由社」も似た記述だ。

押し付け憲法ではない

しかし「学び舎」は違う。「GHQは、憲法研究会の憲法案などを参考にしてGHQ草案をつくり、政府に示します。憲法研究会とは、新しい憲法をつくらうと集まった、学者やジャーナリストのグループです。憲法学者の鈴木安蔵が中心となり、自由民権運動のなかでつくられた憲法案や、世界の憲法をとり入れて、国民主権を基本とする憲法案をつくり、発表していました。政府は、GHQ草案をもとにして、新たに憲法改正案を作成します」「衆議院議員がこれを審議しました」「生存権が定められるなど、重要な修正が加えられました」。押し付け憲法ではないことをはっきりと伝えている。

会員さんの映画

松元ヒロさん「テレビで会えない芸人」

「憲法くん」でおなじみの芸人松元ヒロさん(69)は2007年6月22日の本会主催のソロライブ開催の時から14年間、本会の大切な会員さんです。全国各地の独演会では、チケットが取れないほどの超人気です。

このほど出身地の鹿児島テレビの四元良隆・牧祐樹の共同監督で、松元さんの映画『テレビで会えない芸人』(81分)が制作され、1月から全国で公開中です。

松元さんは永六輔氏から「九条をよろしく」のメッセージをいただき、マルセ太郎氏から「自分の立ち位置や思想のあるお笑い」を学び、立川談志氏からは「おまえは庶民になりかわってモノをいう芸人だ」と評され、憲法をたたえ弱者の立場で政治家を揶揄し、テレビには登場せず舞台上で活躍されています。



< 訃報 > 反戦反核を訴えた 宝田明さん



俳優の宝田明さんは3月14日87歳で死去。11歳で終戦を満州で迎え、侵攻してきたソ連軍に銃撃

され、麻酔なしで弾丸を摘出したという。

1954年20歳で映画『ゴジラ』の主演に。

壮年になってから自らの悲惨な戦争体験を話し始め、反戦平和、反核兵器、護憲を訴え、ウクライナ侵略も大変憂慮していました。

原町区育ちの漫談家松鶴家千とせさん



1970年代、「わかるかなあ、わかんねえだろうなあ。オレがむかしタ焼けだったころ/弟は小やけだった」で一世風

靡の漫談家松鶴家千とせ(しゃくやくちとせ・本名小谷津こやつ英雄)さんが、2月17日84歳で死去。満州生まれで苦労され、家族6人で日本に引揚げて父の故郷原町へ。県立原町高校を中退、上京し漫談、歌手、司会者に。ビートたけしの「ツービート」の名付け親。

会員さんからの情報です

■朝日新聞北京支局の記者“高田正幸さん”は南相馬市原町区太田出身。原町高校を2003(平成15)年3月に卒業、早稲田大学から朝日新聞社に入社。現在は北京支局の記者として中国や北京の記事をたびたび署名入りで書かれています。■高田さんと同じ原町高校の隣のクラスにいたのが、マラソン選手で箱根大学駅伝「元祖山の神」の“今井正人さん”(37)です。2月27日の大坂琵琶湖マラソンで6位に入賞し、24年パリ五輪選考のMGC出場権を獲得しました。

<< 事務局より >>

3月16日(水)午後11時36分の大地震

特に鹿島区や相馬市、新地町は東日本大震災以上の、昨年2月13日から再びの大被害です。建物やインフラの被害も大きく、学校も休校で子どもたちが心配でなりません。

ロシアの侵略反対の行動をおこそう、意見広告を出そうと事務局で話し合い、急いで

「反戦チラシ」を作って3月18日に全市全新聞に約1万7千枚を印刷し折り込みました。(毎年5月3日の憲法記念日の折り込み「護憲チラシ」の前倒しで)でも今日本では、憲法9条を無力と否定し、軍備増強や核兵器の共有、核武装を唱える政治家たち。武力を盲信するプーチンと同じ時代錯誤の短絡的な考えです。武力よりも理解と協調、外交の時代です。

はらまち九条の会 事務局

○会長: 平田慶肇 TEL(0244) 24-1211

○事務局長: 早坂吉彦 TEL090-2975-2508

○事務局次長: 山崎健一(福島市) TEL090-7527-5453 Eメール: yamazakiken1@gmail.com

○会計: 井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892

○石田賢二(郡山市) TEL080-5556-4037 ○番場恵子 TEL22-0715 ○大浦祥見 TEL24-0704

○志賀勝明(相馬市) TEL090-9530-5524 ○若松麟二 TEL23-5732 ○田中徳雲(小高区)

